

## 房総ゆかりの絵師を巡る

房総ゆかりの絵師である菱川師宣は、安房国平群郡保田村（現・鋸南町）の出身で、江戸時代に発達した浮世絵の祖とも呼ばれます。今回は、師宣の作品と生涯、そして当時の社会的背景を探ることで、近世前期という時代の特徴や、江戸と房州（千葉県）との関係性などを学び、今日に至る千葉県の歴史像について理解を深めました。

日 時	平成 21 年 10 月 24 日（土） 午後 9 時から午後 4 時 20 分 （JR 千葉駅東口集合 バス移動 JR 千葉駅東口解散）
場 所	菱川師宣記念館および師宣生誕の地、師宣墓所など、鋸南町周辺
日 程	9:00 JR 千葉駅東口 NTT 前 集合出発 バス移動 10:15 - 12:45 菱川師宣記念館（～11:30） 見学後、昼食（中央公民館ロビー） バス移動 12:45 - 13:45 菱川師宣生誕地跡、同墓所、保田海岸 バス移動 13:45 - 14:30 妙本寺 バス移動 14:30 - 15:00 源頼朝上陸地 バス移動 16:20 JR 千葉駅東口 解散

### 【おもな見学内容】

菱川師宣記念館：師宣の作品やその生涯について、解説を交えながら見学。

菱川師宣生誕地跡、同墓所：師宣の生涯やエピソードなど、解説を交えながら見学。

妙本寺：里見義堯公と親交の深かった日我上人の寺。交通の拠点でもあった当地について学ぶ。

源頼朝上陸地：治承4年（1180）8月、石橋山の合戦に敗れた源頼朝が真鶴岬から小船で脱出、安房国へと向かった上陸地点。古くから要衝地であった当地について学ぶ。

協力 鋸南町教育委員会、菱川師宣記念館

JR千葉駅東口NTT前からバスはスタート。車中では、下知識にと、菱川師宣関連のビデオを見ながらの移動です。まずは菱川師宣記念館へ。本日は講師として笹生浩樹氏（菱川師宣記念館）をお迎えし、行く先々では、随時ご解説をいただき、たいへん勉強になりました。

### 菱川師宣記念館

～ 浮世絵の祖のゆかりの地を訪ねる～

菱川師宣記念館（鋸南町歴史民俗資料館）は、鋸南町出身の浮世絵師・菱川師宣の業績とその作品、および浮世絵全般の歴史や江戸庶民風俗などを紹介する施設として、1985年に開館した公立の記念館です。年に3～4回の展覧会を実施していますが、この日はちょうど「明治浮世絵界の巨匠 月岡芳年展」が開催中でした。



菱川師宣記念館



館内見学風景



見返り美人の像

### 菱川師宣誕生地

菱川師宣の生家跡で、千葉県指定史跡です。菱川師宣は、本名は吉兵衛（きちべえ）といい、江戸時代初期の寛永中頃（1630年頃）保田に生まれました。生年は今だ確認されていません。父、菱川吉左衛門は、布地に刺繍（ししゅう）や金銀箔（きんぎんぱく）をほどこす縫箔師（ぬいはくし）。京都移住者と伝わる吉左衛門と、地元保田の岩崎家の娘、お



師宣誕生地の碑



たまが結婚し、生まれた師宣は、7人兄弟の3番目で、長男でした。幼い頃から家業を手伝い、絵の才能を目覚めさせ、後に江戸に出て、当時、浮世(うきよ)と呼ばれた江戸のちまたの庶民風俗を描き、また独自の発想と絵画様式で、「浮世絵」というそれまでにない絵画ジャンルを切り開きました。

師宣が描いた様々な絵本の中には、彼の経歴を紹介した序文などが記されているものもあります。「大和武者絵」の序文には、「爰(ここ)に房州の海辺、菱川氏という絵師、船のたよりをもとめてむさしの御

城下にちっきよして、自然と絵をすきて、青柿(あおがき)のへたより心をよせ、和国絵の風俗、三家の手跡(しゅせき)を筆の海にうつして、これにもとづいて自ら工夫して、後この道一流をじゅくして、浮世絵師の名をとれり」とあり、幼い頃から絵が好きで、独学で自分の流派を築いていったことがわかります。

もっとも知られた肉筆美人画「見返り美人図」は、当時の江戸の女性の最新のファッションや髪形を取り入れ、ふと振り返った流れるような体の線で女性らしさや、粋(いき)な元禄文化の華やかさを演出しています。落款は「房陽菱川友竹筆」。友竹(ゆうちく)は最晩年の号。故郷房州保田を愛した師宣の名作です。

#### 別願院 菱川師宣の墓

保田に生まれた菱川師宣は、浮世絵の創始者として江戸で名をはせました。しかし、少年時代を過ごした保田には、特別な思い出があったようです。肉筆画の落款(らっかん)には「房陽(ぼうよう)」「房国(ぼうこく)」と肩書きし、房州生まれの絵師であることを誇りとし、また長男には房州の房をとって師房(もろふさ)と名づけています。別願院(べつがんにん)は、通称は浜の



別願院

寺と言ひ、菱川家の菩提寺(墓寺)でした。元禄7年(1694)6月4日、江戸で亡くなった師宣は、浅草の誓願寺(せいがんじ)の支院徳寿院(とくじゅいん)で葬儀が行われましたが、そこには墓はありません。故郷の別願院に墓が建てられたと推測されます。しかし、師宣の死後、元禄16年に起こった元禄の大地震と大津波で房総沿岸は打撃を受け、別願院も流失、墓石も海中に没したと思われます。現在の墓は、後に再建されたもので、昭和2年に浮世絵研究家の東京の井上書店主らによって建てられたものと、平成5年、師宣没後300年に子孫の菱川岩吉



師宣の墓

氏によって建てられたものです。戒名は「勝誉即友居士(しょうよそくゆうこじ)」。

師宣は亡くなる一ヶ月前、別願院に、梵鐘(ぼんしょう)を寄進しています。家系図も刻まれたこの梵鐘は太平洋戦争中、金属回収令により供出され、今はありません。復元されたものが菱川師宣記念館前にあります。

## 保田海岸

～ 漱石、八十の夏の思い出～

保田は明治以降、多くの避暑客でにぎわう避暑地として人気がありました。多くの文人墨客も訪れ、作品の中の舞台として登場させています。

夏目漱石は、明治22年(1889)8月、22歳の時、第一高等中学の学友4人と房州を訪れています。汽船で保田に着いたのが8月7日。保田での滞在は約十日



保田河岸

間で、昼は海水浴や鋸山散策。夜は酒盛りに囲碁、カルタと学生時代の夏休みを大いに楽しんだようです。旅から帰ると、漱石はこの旅の紀行漢詩文集「木屑録(ぼくせつろく)」を書き上げました。これによると、日焼けでしだいに真っ黒になっていく自分を鏡で見て驚く漱石が書かれています。また、若さゆえの今の自分に苦悩し寝付けぬ夜もあったようです。この房州旅行は、後の文豪、漱



房州海水浴発祥地の碑

石の文学的資質を作る一つの転機となったと言われます。小説「こころ」には保田が舞台となる場面もあります。これによると、保田はどこもかしこも生臭いとか、海に入れば大きな石がごろごろしていると、あまりいい印象ではないようです。しかし、鋸山の景観には深く感じ入ったようです。この漱石の海水浴を記念し、保田海岸には房州海水浴発祥地の石碑が建てられました。

詩人、西条八十(さいじょうやそ)も保田を愛した一人です。早稲田中学時代から保田にたびたび避暑に訪れていた八十は、保田海岸でその幻想的な詩風を培いました。今なお歌い継がれている童謡「かなりや」は、保田で創作されたもので、大正7年(1918)に児童雑誌「赤い鳥」に発表され、26歳の新人無名の八十が世に出るきっかけとなった名作です。保田で出会った一人の少女がモデルとも言われ、八十の淡い初恋があった保田海岸です。

保田海岸は、古くから富士の見える絶景ポイントで、房総を旅した歌川広重は、「富士三十六景」シリーズで、ここからの富士の眺めを浮世絵版画にしています。

## 妙本寺 ～ 房総里見氏ゆかりの名刹～

吉浜の妙本寺は、日蓮上人から四代目の日郷(にちごう)上人が、吉浜の地頭、佐々宇左衛門尉(さそうさえもんのじょう)の招きにより、建武2年(1335)に創建された日蓮宗富士興門派(こうもん



妙本寺

制札(せいさつ)が5通残っていますが、これは、北条水軍がたびたび房総に攻め寄せ、妙本寺に軍を駐屯させたことを物語っています。

妙本寺は里見氏と密接な関係を保ち得ましたが、そのきっかけは、天文4年(1535)、里見義堯(よしたか)と妙本寺14代日我(にちが)上人との出会いから始まります。お互いの学徳の高さに感銘した二人は、以後深い親交を続け、里見氏の庇護のもと、妙本寺は戦国乱世を乗り切りました。義堯の死の際は、日我上人は百日法要を営み、その死を悼みました。妙本寺の裏山の海上を見渡せる場所には、里見家臣が警護番として北条軍の襲来に備え、知らせの太鼓が置かれていたため、今でも太鼓打場(たいこうちば)という地名で呼ばれています。里見氏に関する古文書も多く残され、房総の戦国期の歴史を知る貴重な資料として注目されています。

その他、日蓮宗関係の寺宝も多く、日蓮直筆の「愛染不動感見記」(国指定重要文化財)をはじめ、小松原法難のときの受太刀「宗近(むねちか)」、宗門最初の等身御影(みえい・日蓮上人木像)、光明天皇、後土御門天皇の御綸旨など貴重な資料を有します。これらは、年一回、10月15日の虫干しのときに公開されます。

妙本寺客殿の向拝(ごはい)彫刻は、宮彫師後藤家の初代、後藤義光(よしみつ)の大作。回廊天井画は川名楽山の天女図などがあり、歴史的にも文化的にも見ごたえのある寺院です。

## 源頼朝上陸地

～天下取りへの再起の一步～

治承4年(1180)伊豆で流人生活を送っていた源頼朝は、平家打倒をかけた挙兵しましたが、石橋山の戦いで大庭景親(おおばかげちか)に敗れ、真鶴(まなづる)崎から海路安房に落ち延びました。「吾妻鏡(あずまかがみ)」によると8月29日、「安房国獵島(りょうじま)」に着いたと記されています。これが現在の鋸南町竜島とされ、昭和9年に千葉県指定史跡に指定されました。

先着していた北条時政に出迎えられ、わずかな供で竜島に上陸した頼朝は、神明社に落ち着き、安房の豪族たちに味方になるよう書状を送ります。

は)の本山のひとつです。昔は富士小泉久遠寺(くおんじ)を兼務し、遠く九州にまで末寺を多く抱える寺院で、歴代の住職の中には、朝廷に宗義天奏をとげ、御綸旨(ごりんじ)を賜るなど、天皇家とも深い関係を持っており、山門には菊の御紋も掲げられています。

戦国時代には、沿岸の高台という砦のような立地条件のため、房総の戦国大名里見氏と相模の北条氏との戦いでは、しばしば戦いの拠点として利用されました。妙本寺には北条氏の



上陸地の碑

9月3日、房総一の勢力を誇る上総介広常(かずさのすけひろつね)の館(一宮町)に向かうため竜島を出発。吉浜から江月、大崩の山路を越え、長狭郡貝渚(かいすか・鴨川市)に出ましたが、その夜、平家方の豪族、長狭常伴(ながさつねとも)の襲撃を受けます。これを撃退したのが鴨川の一戦場(いっせんば)で、頼朝が難をのがれて隠れたのが、仁右衛門島と言われています。

その後、参着した安房の豪族、安西景益(あんざいかげます)のすすめで、外房を南下して安西館(南房総市三芳)へ入りました。ここで頼朝は、各地の豪族へ書状を書いたり、付近の神社などに戦勝祈願をしたりして過ごし、9月13日、多くの味方を得た頼朝は、安西館を出発し上総へ向かいます。そして房総半島を北上して鎌倉へ入りました。



上陸してからわずか14日間で、敗軍の将、頼朝は、房総の豪族たちを味方にし、一大勢力となります。そして、ついに平家を滅ぼし、鎌倉幕府を開きます。頼朝にとって再起の一步となった竜島は、その後の日本の歴史にと

っても重要なターニングポイントとなったのです。

鋸南町をはじめ、房総各地には頼朝伝説として語られるさまざまな伝説が残されています。

#### 浮島伝説 ~ヤマトタケルと景行天皇、天皇の料理番誕生~

勝山沖にある浮島(うきしま)は、古代ロマンに満ちた伝説が伝わります。その昔、大和朝廷から東国平定を任された景行(けいこう)天皇の皇子、ヤマトタケルノミコトが、相模から内海(現在の東京湾)を渡ろうとすると、突然の大嵐で、船が沈みそうになりました。その時、妃のオトタチバナヒメが身代わりに海に身を投げて、海神の怒りを鎮め、無事房総に渡ることができたのです。ヒメのなきがらが流れ着いたのが、勝山海岸にあるみさご島と言われます。



浮島

東国平定を成し遂げたヤマトタケルの死後、父の景行天皇は、同じ旅路をたどり、浮島に来ました。浮島がとても気に入った天皇は、しばらく滞在したといわれています。この時、天皇に同行していたイワカムツカリノミコト(磐鹿六雁命)が、

浜辺でとれた大きな蛤や、角で作った弓の先で釣り上げた堅魚(鯉)を料理して天皇に差し上げたところ、たいそう喜ばれ、以来、天皇家の料理番となりました。のちに料理の神様としても祭られるようになりました。勝山は日本料理文化の発祥地でもあります。

以上を巡り、見学は無事終了。たいへん有意義な1日を過ごすことができました。お天気の方も残念ながら雨が降り出したにもかかわらず、最後までご協力いただきました参加者の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。

## 参加者の声

- ・見学がゆったり時間をとってあったのでよかった。ツアーだところはいかない。全部解説が付いていてよかった。ビデオを 2 回見たのも今日のことがしっかり頭に入ってよかった。
- ・学芸員の方の説明を聞きながら、歴史の一部が学べたこと、たいへん有意義でした。ただの見学より、説明が入りよかったです。重ね重ね、ありがとうございました。次回も参加したいと思っています。
- ・とてもよい旅でした。ありがとうございました。
- ・いろいろ説明していただき、楽しい時間を過ごせました。また、参加したいです。ありがとうございました。
- ・記念館の学芸員の方が説明してくれ、見学先の歴史や伝説がわかりやすく、よく理解でき、有意義であった。機会があればまた参加したい。
- ・途中から雨になりましたが、楽しく見学できました。また参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・勉強になりました。またの機会に参加させてください。
- ・たいへん勉強になりました。またの機会にこのような企画がありましたら、是非参加させてください。
- ・お昼の時間もゆっくりとれて、説明もわかりやすく、楽しい一日を過ごしました。ありがとうございました。
- ・いろいろなことを知りました。たいへん楽しく勉強しました。世話役のみなさんに感謝申し上げます。
- ・雨中で少し残念でしたが、学芸員の方の説明はていねいでわかりやすかったです。

